

アジアの巨額貯蓄を地域の開発投資に活用を ——ジン ADB 副総裁、メコン開発フォーラムで発言

アジア開発銀行（ADB）のリーチュン・ジン副総裁は、シンガポールで2006年3月8日に開催されたメコン開発フォーラムで、東アジアで今後5年間で推定1兆ドル必要となるインフラストラクチャー投資に関して、この地域にある巨額の資金を地域の投資に活用する必要性を強調した。

「力強いアジアの経済によって、ここ数10年に実現した高い貯蓄率や貿易黒字は、アジアに対して巨額の資金や外貨準備を積み上げることを可能にした」とジン副総裁は述べると同時に、「ただ、皮肉なことに、それらの巨額の金融資産の多くがアジア地域内で必要とされているのに、現実には域外に投資されてしまっている」と述べた。

そして、ジン副総裁は「これからの課題は、これらの資金をアジアにとどまらせ、しかも地域の開発を支援するために投資してもらうこと、さらに加えて、地域の新興経済に対して外国投資を引きつけるように魅力を持たせることだ」と述べた。

メコン開発フォーラムは、ADBとIES（International Enterprise Singapore）、国際ビジネス協会（INTOBA）の共催で開催され、メコン河流域のインフラストラクチャー開発における官民のパートナーシップに焦点を当てて論議した。

カンボジアのチャム・プラシド商務相は、フォーラムで、「民間企業は、大メコン河流域圏（GMS）での成長のエンジンだと認識されている」と述べたほか、「GMS地域は、多くの外国直接投資をひきつける必要がある。GMS地域への民間企業の参加の機会は、インフラ開発から製造業、農業、森林開発まで広範に及んでいる」と述べた。

GMS地域は、2012年までに東西間、および南北間で開発された道路と経済回廊が完全につながる計画であり、同時に、国境を越えてヒトやモノの移動が進むように標準的な取り決めも採用になる予定だ。この顕著な経済拡大を支援するには、メコン河流域6カ国は、これから数年内に100億ドルから150億ドルのインフラ投資が必要になる。